

#### 第4回 流総計画再構築検討会 議事要旨

日時 平成26年8月26日 13:00～15:00

場所 日本下水道協会 大会議室

##### (1) 水質環境基準以外の多様な目標の設定（季節別目標）について

- 季節別目標は現時点で環境基準未達成だが季節別運転を行うニーズがある場合もある。このため、弾力的な進め方を認めていただきたい。
- 環境基準の達成を前提としてそれ以外の目標を設定するのなら問題ないが、環境基準を達成していない場合は水質を明らかに悪化させることはできない。
- どこまでなら環境基準に問題がないかを事前に定量的に評価するのは難しいのではないかと。季節別運転を実施すべきかどうかのみを記載してはどうか。
- 水環境の目標は定性的に記載し、関係者で合意されれば具体的な季節別の処理水質は記載せずに試行的に季節別運転を実施することは可能と考えている。
- 水質環境基準が達成されていない水域についても水質が悪化しないのであれば季節別水質を設定できるのか、そもそも運用が無理なのかを確認したい。
- 汚濁解析で環境基準を達成可能であることは確認していただきたい。
- 担保するという表現ではなく、原則として達成・維持を前提とする、という程度の表現にしていただきたい。また、冬場と夏場のシミュレーションで確認するというのなら、そのように解説で丁寧に記載していただきたい。
- 環境基準の達成は担保というくらいの書き方にしていきたい。その上で栄養塩類の循環のバランス等を考えて良好な環境にしていくという考え方である。
- 環境基準は75%値で評価するため、ある月に栄養塩を出すのはやむを得ないという理解でよいか。
- 冬場に栄養塩をとりすぎないという意味である。流総計画の中でも新たな取り組みであるため、うまく制度・計画・運用面に落とし込んでいきたい。

##### (2) 資源・エネルギー利用、省エネの推進について

- ワーキンググループにおいても、見える化を行うことに意義があるという点は理解いただいている。省エネについては事例までは示すが、それ以上は各流総計画策定時に勘案していただくということにしている。
- 原則とするとあるが、小さな処理場もすべて検討する必要があるのか。また、算定対象は水処理施設だけでよいのか。
- ポテンシャルはエネルギーの地産地消もあるため原則として基本すべての処理場で算定していただきたい。エネルギー消費量は汚泥処理も算定することが望ましいが、導入にあたってすぐには無理と考えている。
- P120の⑤当初計画におけるというのがなにを示しているのか。

■規模別で計画処理水質を設定している現流総計画を意味している。

### (3) 中期整備事項の設定について

■中期整備事項の計画期間は、事業管理計画との関連で概ね10年間としている。

■普及促進よりも浸水対策の方に重点が変化しているため、普及促進については記載する内容が少ないと考えられる。

■整備方針としては普及促進や統廃合等について記載していただきたい。

■統廃合によって第3表そのものが変わったときに流総計画全体の変更は不要で中期整備事項のみの更新で大丈夫なのか。中期整備事項は順位の実施に関する事項というのであれば流総計画全体も10年単位で見直しが必要ではないのか。

■全体を変更するかどうかについては、P17の要件にあるように重大な影響が及ぶ場合の統廃合のみが変更要件となるようにしている。策定手続きについては中期整備事項のみの場合は簡素化できる方向で調整している。

### (4) 作業の簡略化について

■特に意見なし

### (5) 今後のスケジュールについて

■今回の意見を踏まえて県流総へ反映しやすいように今年度中に早めに公表したいと考えている。省令の改正も合わせて行う。

### (6) 流総指針全体について

■流総の公表については、下水道の効果がより分かりやすい表現がよいと考えている。下水道の負荷削減率やエネルギーポテンシャル・エネルギー消費量について、図を活用した雛形等があればありがたい。

■各流総で作成したものをHPで公表するようにしたい。

■エネルギーポテンシャルの算定例は消化を前提としているため、注釈が必要ではないか。また段階的高度処理は具体的な内容の記載は求めないということによいか。

■現案は最低限の表現を記載したものであり、具体的な内容もできれば書いていただきたい。

■設計指針では「二次処理」とは表現していないため、注意が必要である。

■いくつか宿題か課題が残ったが、委員長預かりとさせていただきます。